

御挨拶 ホセ・マヌエル・パカ（エアフルト市外国人評議会議長）

エアフルトの皆様

エアフルト市外国人評議会の構成、活動と、これまでの成果について、簡単に御説明いたします。1992年に当市の外国人評議会が選出されましたが、これは旧東ドイツ地域では最初のものでした。以後、外国人市民たちがこの社会に融合すること、ドイツ人との同権を獲得すること、そしてこの社会を共に築いていく長い道のりが始まったのです。外国人評議会は、移住者の利益代表として、また州都エアフルトの市議会ならびに他の機関のアドバイザーとしてとして、テューリンゲン州の各自治体の秩序の中にしっかりと組み込まれております。

振り返ってみますと、設立当初は、外国人評議会の活動に必ずしも信頼が置かれてはいなかったことが、思い出されます。しかし歳月を経て、私たちは信頼しうるだけの能力を備え、政治的にも責任を自覚したパートナーとして認められるようになりました。外国人評議会の活動なしには、移住者が社会のマジョリティに融合して受け入れられるための努力も、また外国人排斥・差別との戦いも、はるかに厄介なものとなっていたことでしょう。外国人評議会は、エアフルトで外国人とドイツ人が平和に仲良く暮らしていくための紐帯となっています。

1992年の創設当時、私たちの責務がここまで広く多くなるとは、誰も考えていませんでした。こんにちでは、社会のあらゆる局面で、私たちの意見が求められます。市政の具体的な問題にも参画しています。EU以外の出身で居住期間の長い人々の参政権の問題もそのひとつです。外国人の融和をどう進めるかは、永遠に続く課題といえます。社会問題、医療、教育、学校と職業での機会均等、家族の再結合、亡命権、就職問題などがあります。その他にも、外国人評議会は融和のための数多くのプロジェクトに参加しています。

今後も課題は数多くありますが、私たちの活動を向上させていきたいと願っています。

エアフルトの皆さん、どうか一緒に手を携えて行きましょう。

ホセ・マヌエル・パカ